

平将門の乱

平安時代なかばの関東は治安が悪く、豪族たちはたがいに争いをくりかえしていましたが、なかでも良将(持)の子将門は、土地をめぐる争いから常陸(今の茨城県)の豪族源護の子や叔父の国香を討ちました。また、常陸の国司と豪族との争いをきっかけにして常陸国府(国司が政治を行なう役所)を占領しました。続いて関東各地の国府を占領して自分の弟や仲間たちを国司に任命しました。朝廷は、これを反乱とみなし軍をつかわしましたが、その前に国香の子貞盛と藤原秀郷は将門を攻撃して乱をしずめました。こうした将門の動向は、関東地方の武士達が朝廷に対抗できる大きな力を持ちはじめたこととして重要な出来事でした。



国王神社

将門の本拠地のあった常陸国岩井郡内に建てられた神社。将門をまつこの神社は、天禄3年(972)将門の娘である如蔵尼が将門の魂を慰めるために建てたと伝えられている。



岩井の宮所跡 茨城県岩井市
将門の拠点となった所。



将門の乱関係図 坂本賞三『将門時代』による



将門を攻める藤原秀郷と平貞盛 「倭藤太絵巻」金戒光明寺蔵より
倭藤太は、藤原秀郷の別称。秀郷は、平貞盛とともに将門を討った。